

<b>2 事業の概要と成果</b>	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	<p>プロジェクト目標「ビエンチャン県内の3か所の中等学校に建設された図書館が適切に運営され、図書館活動が定着する」</p> <p>サカ中等学校及びヒンフープ中等学校にも図書館が建設された。昨年建設されたポンサイ中等学校とともに、研修を受けた教員と生徒により適切に運営され、週5日定期的に開館され、1日あたり平均206名（全校生徒の22%）の利用がみられるようになった。このことから、ビエンチャン県において図書館活動が広がるための基礎ができ、プロジェクト目標の達成に近づいていると言える。</p>
	<p>ビエンチャン県内の2か所の中等学校に新たに図書館が建設され、3か所の図書館が適切に運営される</p>
(2) 活動内容	<p><b>サカ中等学校及びヒンフープ中等学校</b>、各校において、図書館を設置する以下の活動をおこなった。</p> <p><b>1) 関係機関との協働枠組みの構築</b>      県教育スポーツ局（以下県教育局）、郡教育スポーツ局（DESB）、村教育開発委員会（VEDC）との協働枠組みを構築した。</p> <p>1-1 対象校2校を管轄する各VEDC、DESB、及び県教育局計12名に対し、事業計画詳細の説明、期待される役割の確認、DESB、VEDCと当団体の三者で締結する協定書（MoA）案の説明を目的とした「オリエンテーション会議」を、両校合同で6月30日に実施した。</p> <p>1-2 国立図書館とともに、7月1日～3日にかけて、2郡のDESBスタッフ計8名に向けて、「VEDCの役割と責務」、「学校図書館の意義や運営」について研修を行った。</p> <p>1-3 対象2校の各VEDC及びDESBと協定書（MoA）を7月3日に締結した。協定書は、①図書館活動及び図書館運営に係る予算を含めた学校改善計画の策定、②図書館建設のモニタリング、③学校改善計画の実施状況のモニタリングを内容としている。</p> <p>1-4 上述1-2の研修を受講したDESBスタッフが中心となり「VEDCの役割、意義、責務、組織構成」「学校図書館の役割、意義、持続可能な運営」についてレクチャーし、VEDCが学校図書館を今後どう支援すべきか検討する研修を以下とおりに実施した。</p> <p>8月19日～20日にポンホーン郡DESB4名がサカ中等学校のVEDC10名に対して、8月21日～22日にヒンフープ郡DESB4名がヒンフープ中等学校のVEDC11名に対して実施した。日本から小林専門家を派遣予定であったが、新型コロナウイルスの影響でラオスへの渡航ができなかったため、研修実施前に小林専門家とオンラインで繋ぎ、アドバイスを受ける形で対応した。</p> <p><b>2) 図書館の建設</b>      サカ中等学校およびヒンフープ中等学校で、床面積120㎡、78席、本棚10台規模の図書館を建設した。建築家野口朝夫氏を日本より派遣し、設計・工事調整をおこなう予定であったが、ラオスへの渡航が出来ない状況であった為、施工監理の専門人員（ラオス人建築家Vannavong氏）とメールやSNSなどで頻りに連絡を取り、随時状況を確認することで指示を出し、遠隔で設計・工事調整をおこなった。</p> <p>2-1 サカ中等学校はヴィエンマイ建設会社、ヒンフープ中等学校はセンポンチャルン建設会社を施工業者として決定し、4月に工事契約を締結、着工した。工事は順調に進捗し、9月末には完了した。新型コロナウイルスの影響で対象地への移動が禁止されていた時期には、SNSを使い、施工監理専門員、施工業者、当会ラオス事務</p>

所でグループを作り、工事の進捗状況を画像や動画も交えて情報共有し、施工監理をおこなった。

2-2 関係者(学校、国立図書館、県郡教育局)と相談し、生徒や教員のニーズに合わせてとともに、教科書やカリキュラムに適した蔵書を選定した。

2-3 1校あたり3188冊の書籍を準備。うち236冊がタイ語、178冊が日本語の図書にラオス語の翻訳を貼り付けた寄贈図書となった。同時に図書館運営に必要な備品、図書カードなどの消耗品を図書館に設置した。

2-4 関係者を集めた開設セレモニー(引渡式)を、10月15日にヒンフープ中等学校にて、10月23日にサカ中等学校にてそれぞれ実施した。

### 3) 教員及び生徒のトレーニング

3-1 活動1-3の実施時に、会場を1年目で開設したポンサイ中等学校の図書館とし、調印式後に同校の図書館担当教員が、新規開設する2校の関係者10名、DESBスタッフ8名に図書館を案内し、学校図書館のイメージ造りをおこなった。

3-2 学校を選定した図書館担当教員5名、及び「図書ボランティア」の生徒11名を対象に、各校において、ラオス国立図書館とともに、図書館運営研修を実施した。

研修は2段階に分け、テキストとして当団体が出版した『図書館運営マニュアル』を使用。第1段階は3日間で、図書の管理や貸出の手法など図書館の管理運営に関する研修を実施し、VEDCメンバーも参加した。第2段階は2日間で、子どもが図書に親しむための手法として「輪読」「暗唱」「本の紹介」「(本を題材にした)演劇」の実施方法や、授業での図書活用方法など、読書推進活動に関することを広く学び、研修実施後には修了書を発行した。研修は、サカ中等学校では、9月22日～24日と10月21日～22日に、ヒンフープ中等学校では、9月28日～30日と10月13日～14日に実施した。

### 4) モニタリングと評価

4-1 1～2か月に一度の割合で事業進捗のモニタリングを各学校でおこなった。新型コロナウイルスの影響で、対象地への移動が禁止されていた時期には、SNSを活用し学校関係者と情報共有した。10月の図書館開設後は、運営状況、活用状況をモニターした。開設後に3か月に1度の割合で学校から提出される予定の運営報告は、1月13日～15日に、各学校より来館者記録などの利用状況が提出された。

4-2 1月13日～15日に、各校において、図書館運営記録や図書貸出記録をまとめ、担当教員及び図書ボランティアの生徒、利用者の生徒合計71名にインタビューをおこなった。利用状況に関するデータを集計・分析したうえで、2月18日～19日に、各校において、学校、VEDC、DESB、カウンターパート機関とともに、図書館が適切に運営されているかどうかを確認した。この評価会議には、47名が参加した。同時に、次年度の学校図書館運営計画を策定するためのワークショップを、DESB、学校、VEDCと共に各校で実施した。

また、専門家の下田氏、小林氏が、新型コロナウイルスの影響でラオスへの渡航できなかつたため、1月末～2月初めにかけてオンライン会議を実施し、事業のまとめと評価分析に関する意見やアドバイスをいただいた。

ポンサイ中等学校にて、図書館活動定着の為に以下の活動を実施した。

### 5) 読書推進活動の研修(応用編)

5-1 図書室担当教員及び図書ボランティアの生徒を対象に、図書館が持続発展するための研修を3日間実施した。当初は図書館プログラムを自分達で企画するという内容を予定していたが、図書館専門家のアドバイスを

	<p>て、図書館活動定着のために、教科学習などの学校教育や学校活動をサポートできるような図書館活動が出来るようにすることを狙いとした研修内容に変更した。</p> <p>12月8日と10日には、「授業における図書活用」研修とし、図書館担当の教員に加え各教科の代表1名ずつ、合計16名の教員が参加した。授業の教科学習で、図書を実際どのように活用できるかをグループで考え、活用案をアイデアシートにまとめてもらった。</p> <p>12月9日には、図書館担当教員と図書館ボランティアの生徒計16名が参加し、「図書館サイン・図書館展示」に関する研修を実施した。施設案内や利用案内など図書館の表示を工夫する方法や、テーマに沿った展示で図書を紹介する方法を研修した。これにより生徒や教員が図書館を利用しやすくなり、図書館が学校での学びをサポートする土台ができるとともに、図書館運営をおこなう教員や生徒たちが自分達で工夫し実践することで、モチベーションやオーナーシップを高めることにも繋がった。</p> <p>研修の最後には、参加者に修了証書を授与した。</p> <p>また、本研修の実施にあたっては、日本から図書館専門家の下田氏を派遣する予定であったが、渡航ができなくなったため、オンラインでの講義となった。さらに、当日の実習部分を補うため、当団体スタッフを事前に1か月間かけて研修し、研修当日にスタッフがグループワークをサポートした。</p> <p><b>6)モニタリングと評価</b></p> <p><b>6-1</b> 1～2か月に一度の割合で学校を訪問し事業進捗のモニタリングをおこなった。新型コロナウイルスの影響で、対象地への移動が禁止されていた時期には、SNSを活用し学校関係者と情報を共有した。3か月に1度の割合で学校から提出される予定の運営報告は、学期中は来館者記録などの利用状況に関する情報が提出された。3年次は報告書形式を整えて提出されるよう働きかけていく。</p> <p><b>6-2</b> 1月13日～15日に、担当教員及び生徒、研修参加教員など合計46名にインタビューをおこない、利用状況に関するデータを集計した。本活動は、活動4-2と同時に実施し、利用状況に関するデータを分析したうえで、2月18日～19日に評価会議を実施した。(活動4-2参照)</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p><b>サカ中等学校及びヒンフープ中等学校</b></p> <p><b>活動 1) 関係機関との協働枠組みの構築</b></p> <p><b>成果(1) 村教育開発委員会が図書館活動をサポートする体制ができる。</b>  <u>指標(1-1)対象2郡の教育局担当者が、村教育開発委員会に対し、図書館整備を含む学校改善計画の策定のための指導ができるようになる</u></p> <p>活動1-2の研修を受講したボンホーン郡・ヒンフープ郡教育局スタッフ8名が、活動1-4の村教育開発委員会(VEDC)メンバー向けの研修を担うことができた。</p> <p><u>指標(1-2)村教育開発委員会により図書館運営計画が作成される</u></p> <p>VEDC向け研修にサカ中等学校は10名、ヒンフープ郡中等学校は11名の参加があり、VEDCが学校図書館をサポートするという合意形成ができた。VEDCメンバーへのインタビュー調査において、「学校図書館の運営を支援することは村教育開発委員会の役割か」の問いに、全員が「強くそう思う」「そう思う」と回答しており、図書館運営を支える体制を構築することができている。事業終了時の活動4-2のワークショップで、VEDCの今後の図書館サポート内容が検討された。2021年8月にVEDCが策定する学校改善計画(School Development Plan)には、学校図書館の運営計画が含まれる見込みである。</p> <p>これらのことから、成果(1)は達成できる見込みと言える。</p> <p><b>活動 2) 図書館の建設</b></p>

**成果 (2) 設備が整った図書館が開設され、運用されるようになる。**

**指標 (2-1) 「学期中、週 5 日、図書館が定期的に開館している」**

十分な設備が整った図書館を建設するために、適切な建設会社を選定・契約し、施工管理専門人員を配置し、進捗状況を随時把握して着実に事業をすすめた。その結果、計画通り、床面積 120 m<sup>2</sup>、78 席、本棚 10 台、蔵書数 3188 冊規模の図書館を開設することができた。

事業終了時のインタビューで、図書館の感想を尋ねたところ、教員や VEDC メンバーから以下のような回答を得られた。

各項目で、とても満足、満足と回答した人の割合

	ヒンフープ	サカ
蔵書数	81%	93%
本の探しやすさ	100%	93%
読書スペース	94%	100%
室内の明るさ	94%	100%

インタビューした生徒全員からは、図書館について「とても満足」「満足」という回答も得られた。

また、開設後の利用者記録により、両校とも図書館が週 5 日定期的に開館していることが確認できた。

これらのことから、成果 (2) は十分に達成されていると言える。

### 活動 3) 教員と生徒のトレーニング

**成果 (3) 開設した図書室が生徒に十分に活用されるようになる。**

**指標 (3-1) 一日あたりの平均図書館利用数が全校生徒の 8%になる。**

図書館利用者記録によると、一日あたりの平均利用者数は

サカ中等学校	245 人	全校生徒の 26%
ヒンフープ中等学校	233 人	全校生徒の 26%

指標 (3-1) は十分に達成出来ている。

**指標 (3-2) 一日あたりの平均図書貸出者数が図書利用人数の 20%になる。**

図書館利用者記録によると、一日あたりの平均貸出者数は、

サカ中等学校	19 人	図書館利用人数の 8%
ヒンフープ中等学校	29 人	図書館利用人数の 13%

指標 (3-2) は達成出来なかった。どちらの学校も、利用者が予想以上に多く、同じ時間に利用をするため、貸出サービスの手続が追いつかなかったことが原因と考えられる。

**指標 (3-3) 研修を受けた教員が図書館運営方法や授業での図書活用法を理解する。**

図書館担当教員へのインタビュー調査で、図書館研修 (活動3-2) に対する満足度を質問したところ、両校とも全員が「とてもよかった」「よかった」と回答した。特に役立った研修の問いに対しては、「貸出・返却」「図書の修復」「配架」など図書館運営に関するものが上位にあがった。

さらに「図書を活用した授業や読書推進活動を実施しているか」の質問に対し、両校の全担当教員10名が「実施している」と回答し、具体的な実践例も確認された。よって、指標 (3-3) は達成されている。

指標 3-2 は達成できなかったものの、1 日あたりの利用人数が全校生徒の 4 分の 1 に達しており、教員が積極的に授業に図書館を活用していることから、開設した図書室は生徒に十分に活用されるようになったと考える。

### 活動 4) モニタリングと評価

**成果 (4) 学校図書館が村教育開発委員会サポートを受け運営されるようになる**

**指標 (4-1) 校長、村教育開発委員会が事業進捗のモニタリングに参加する。**

指標(4-2) 次年度の図書館運営計画(資金計画を含む)が策定される。

当団体の図書館視察時における面会や状況聴き取り、評価会議への参加状況から、指標(4-1)は達成されたと考えられる。

ラオスの学校は9月から新年度となることから、本事業終了時には2021年度の運営計画は未策定であるが、活動4-2で実施のワークショップで具体的内容が検討されており、達成が見込まれる。

#### ポンサイ中等学校

##### 活動 5) 読書推進活動の研修(応用編)

**成果(5) 読書推進の図書館プログラムが実施されるようになる。**

指標(5-1) 学校図書館で、研修で習得したプログラムが、学期に1回以上実施されている。

インタビュー調査で、「図書を活用した授業や、読書推進活動を実施しているか」の質問に、研修を受けた全教員が実施していると回答しており、学期に1回以上実施されていることが確認できた。

指標(5-2) 一日あたりの平均図書館利用数が全校生徒の10%になる。

指標(5-3) 一日当たりの平均図書貸出者数が図書利用人数の25%になる。

図書館利用者記録により、以下の利用が確認出来た

一日あたりの平均図書館利用数	138人	全校生徒数の14%
一日当たりの平均図書貸出者数	21人	図書利用人数の15%

指標5-2は達成できたが、5-3は達成できなかった。ただし、新年度学期開始直後の1か月間は、体制が整っていないことから、図書館は開館したものの貸出を実施していなかったとのことだった。貸出を開始した10月12日以降の記録を集計すると、平均貸出者数は28人となり、同期間の利用人数の21%に達している。図書を利用した授業がさらに実施されるようになると貸出利用の割合も増えると思われる。

指標(5-4) 研修をうけた教員の70%が図書を授業で活用するようになる。

「図書を活用した授業を実際に実践してみたか」の問いに、参加教員15人中14名93%が実践したと回答した。

また実践した14名のうち、8名が1か月に2回以上実施しており、具体的な実践例からは、国語文学の授業で9回、芸術6回、地理5回、物理5回、数学3回、生物2回、化学1回、歴史1回、公民教育1回という実施が確認できた。

上記のことから、指標5-3は達成できていないものの、読書推進のプログラムは実施されており、成果は達成出来ていると考える。

##### 活動 6) モニタリングと評価

**成果(6) 村教育開発委員会と学校の協力のもと、学校図書館が運営されるようになる**

指標(6-1) 学校が2カ月に一度の割合で報告書を作成し、村教育開発委員会に提出している

指標(6-2) 校長、村教育開発委員会がモニタリングを実施できるようになる。

指標(6-3) 学校と村教育委員会のみで、翌年度の図書館運営計画(資金計画を含む)を策定できるようになる。

運営報告については、来館者記録などの利用状況に関する情報は学校から当会へ提出されているが、報告書形式での提出については、充分に実行できていない。また、校長やVEDCメンバーは、当団体の図書館視察時における状況聴き取りや評価会議へ積極的に参加しているが、メンバーのみでのモニタリングの実施には至っていない。よって、指標(6-

	<p>1) (6-2) は充分には達成ができていない。今年度は、新型コロナウイルスの影響で対象地への移動が禁止されていた時期があり、当団体スタッフが訪問し働きかける回数が少なくなってしまうことが影響していると思われる。報告しやすい様式を共有するなどして、3年次は、書面での報告も実施されるように働きかけていく。</p> <p>また、指標(6-3)については、ラオスの学校は9月から新年度となることから、本事業終了時には2021年度の運営計画は未策定であるが、活動6-2で実施のワークショップで具体的内容が検討されており、達成が見込まれる。</p> <p>当該事業は「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標4「すべての人に包括かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」に該当し、細分化ターゲットの「4.1 2030年までに、すべての子どもが男女の別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い中等教育を修了できるようにする」に対し、授業での図書館活用という面で貢献している。また、本事業で図書館が整備されたことにより本を読む機会が増えたことと、授業での図書の活用の機会が広がったことから、「4.6 2030年までに、すべての若者及び大多数(男女ともに)の成人が、読み書き能力及び基本的計算能力を身に付けられるようにする」にも成果をもたらしているといえる。</p>
(4) 持続発展性	<p>上述のように、村教育開発委員会が学校改善計画の策定と役割について十分に理解をしている。また、村教育開発委員会が2021年度の図書館運営を策定する見込みとなっており、図書館運営をサポートする体制が構築されつつある。</p> <p>図書館運営は、校長副校長の理解のもと、担当教員を中心とし、生徒のボランティアがサポートしながら、運営を継続する体制が構築できている。事業2年目となるボンサイ中等学校では、図書館応用研修を実施したことで、図書館運営をおこなう教員や生徒たちが自分達で展示を工夫し、オーナーシップが高まっている。また、授業での図書活用については、研修実施後の実践例が多くみられ、利用記録によると、教員の図書館利用率が前年度よりも増えるという成果が出ている。</p> <p>今後もこの状態を維持し、図書館担当教員と図書館ボランティアの生徒を継続的に確保し自主的な運営を促したうえで、校長・副校長が村教育開発委員会(VEDC)と連携をとりながら、学校開発計画のなかで、予算を含めた図書館運営計画について策定し、VEDCによるサポート体制を構築していくことで、持続発展性が担保できると考える。</p>